

獺は夢を求めて

著者	田邊, 猛
雑誌名	龍南
巻	2 1 0
ページ	3 2 - 3 2
発行年	1929-07-01
URL	http://hdl.handle.net/2298/6877

獏は夢を求めて

近代座の初日が閉場て咽ぶ様な動搖が曲つた街道に流れた、劇場員の疲れた身体に一瞥をくれて彼は薄暗い土間に下りた。彼はそこで二人の男女の影法師を見た、刺す様な彼の視線、

「まあ誰か外に

「正直な見張なんだらう

「私達の夢を嗤ひに

「獏がやつてきたのさ

彼の足は埃多い街道で聲を立ててゐた、空間には女の笑ひ聲が光つてゐた、四角な感覺に月光が集中する、汚れた下水からブルジョア末期の藝術の聲を上げて泣いてゐる。

彼は考へた獏も考へた、女が笑つてゐると、戀人を奪れた感情なんて云ふのは一分子だつてない彼は身体を揺つて笑つた。街路から崩へ上る聲彼は獏になつた時始めてシガレットを取出した、かすかな音、赤い火、煙の中に彼の横顔はとけてゆく、彼は云つた、獏も云つた「俺は死を求めてゐるテンボの早い道化役者だな」劇場の電燈が消へた、彼は明るい芝居の事を考へた。